

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	論理国語	進学	2	古賀・箕輪・西澤・二瓶
教科書	数研出版『論理国語』				
副教材	①『論理国語準拠ワーク』(数研出版) ②『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500 三訂版』(いいずな書店) ③『評論速読トレーニング2000』(数研出版) ④『現代文単語』(いいずな書店)				
評価基準	観点① 知識・技能 ・漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身につけていること等、語彙力の確認。 ・文章構成の理解(文や文章の効果的な組み立てや接続の仕方の理解・推論)				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・文章を的確に理解し、自分の考えを深め、他者に伝えられる表現力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・授業を聞き、与えられた課題、自分で発見した課題に取り組みノートの内容を工夫する。 ・グループワークやペアワークに積極的に参加して、他者と協働して問題解決を図ろうとする。 ・ワーク等の提出物をしっかりと管理し、成果物を提出する。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① (50点)	漢字の書き取り等、語句等の知識、選択肢(接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等)			
	観点② (50点)	演習問題・記述式 (内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等)			
	観点③ (20点)	(1)授業姿勢(5点) (2)提出物(5点) (3)漢字プレテスト(5点) (4)1学期G.W.明けテスト・2学期ビブリオバトル(5点)			
授業のねらい・進め方・注意点	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・適宜漢字の小テストを行う。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。				
学習内容と進め方	③は量が多いので、毎日小さな時間を見つけて書いて覚えること。 ①②は定期考查に向けて計画的に勉強すること。③はG.W.までに論理分野は全て終了するが、英単語同様に定期的に覚えなおすこと。				
学習の目安時間	①週に1～2回。論理国語の授業日などと決めて取り組むとよい。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	【G.W.明けテスト範囲】 ③p.130-p.137/ p.172-p.179 読み / ④p.146-p.209 第3章全部	【副教材③について】*授業開始後に実施。初回:解答→次回:解説 (1)夏目漱石「現代日本の開化」
		(2)岡真理「『文化が違う』とは何を意味するのか？」	
	5	【中間考查】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ③p.140-p.155 重要語C書き取り①～⑧ ④p.4-p.11 《1》-《4》	(3)隠岐さや香「学問の政治性」 (4)松田雄馬「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」
		【期末考查】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ③p.156-p.171 重要語C書き取り⑨～⑯ ④p.12-p.19 《5》-《8》	
	6	【夏期休暇課題】スケールテストに向けて ③p.195まで全て(未習p.184-p.195 第3章 似形・同音・同訓) ④p.36-p.51 《17》-《24》	
	7	③p.244-p.261 第5章 慣用句①～⑨ ④p.20-p.27 《9》-《12》	(6)丸山真男 「『である』ことと『する』こと」 *ビブリオバトル実施
		【学年末考查】副教材の範囲 ①履修教材の箇所 ③p.262-p.279	

家庭学習	又時間・分量	㊸毎日10分程度。㊹寝る前に布団の中などで。
	学習状況の確認方法	㊸㊹㊺定期考査に出題する。 ㊸は単元毎か考査後、担当者の指示に従って提出。㊺は期末考査後に提出。
	成績評価との関係	㊸㊹㊺は定期考査の内容は観点①・観点②に入れる。 ㊸㊹の提出物類は観点③に入れる。㊹はG.W.明けテストとして観点③に入れる。
図書資料の活用等・探究へのつながり	ビブリオバトルを2学期末に実施	

		第5章 慣用句⑩～⑫ 和語①～⑥	㊸p.28-p.35 《13》 - 《16》
3			



|

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	文学国語	進学文系	2	河村、古賀、箕輪、平山
教科書	文学国語（数研出版）				
副教材	準拠ワーク（数研出版）、小説速読トレーニング（数研出版）、げんたん（いいずな）				
評価基準	観点① 知識・技能 漢字の書き取り・読み取り、語句の知識が身についていること。 作者名・成立年代・時代背景等の文学史的知識が身についていること。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 読解力を養い、文脈や筆者の伝えたいこと（作品テーマ）を的確に捉え、記述したり口頭で表現できること。 登場人物の心情を正しく読み取り、本文内容を理解すること。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、単元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。また、読書に対する意欲を持つこと。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 語句等の知識（30点）、文学史等（10点）選択肢（接続語、段落相互の関係、傍線部前後からの文脈・文意の読み取り、同値・逆接等の把握、等）（10点）				
	観点② 演習問題・記述式 （内容理解、主張の把握、傍線部・文の言い換え、適語・適文の抜き出し脱文補充等）（50点）				
	観点③ ワーク（5点）、ノート（5点）、 授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、読書活動（5点）				
授業のねらい・進め方・注意点	・3つの観点を重視し、国語力を養っていくことを主眼とする。 ・教科書を主に用いて、様々な文章を読み、教養や常識を深めていく。 ・ペアワークやグループワークを積極的に行う。 ・授業冒頭の5分は読書を行う。				
学習内容と進め方	定期考查前には準拠ワーク・小説速読を各自で進めること。				
学習の目安時間・	毎日少しずつげんたんに取り組み、定期考查の範囲を繰り返し覚えること。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1. 『ひよこの眼』 山田詠美	平成の小説を読み、内容・構成・展開
	5	中間考査	『げんたん』も範囲となる
	6	2. 『檸檬』 梶井基次郎	大正の小説を読み、内容解釈し考えを
2	7	期末考査 ※小説速読トレーニングは順次行う	『げんたん』も範囲となる
	9	3. 『舞姫』 森鷗外	明治の小説を読み、内容解釈し考えを
	10	中間考査	『げんたん』も範囲となる
1	11	4. 『藤野先生』 魯迅	海外の小説を読み、内容解釈し考えを
	12	期末考査 ※小説速読トレーニングは順次行う	『げんたん』も範囲となる
	1		

家庭学習	学習時間・分量	
	学習状況の確認方法	教科担当者の指示に従うこと。
	成績評価との関係	観点③の評価に加える
図書資料の活用等・探究へのつながり	必要な資料を読み、図書室を利用し内容理解の一助とする	

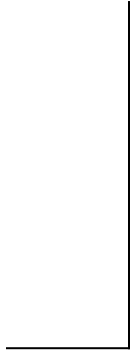
3	2	
	3	

を捉える。

深める。

深める。

深める。



2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	国語	古典探究	進学文系	4	内田、箕輪、西澤、宮城
教科書	『古典探究』数研出版				
副教材	わかる・読める・解ける古文単語330、古文・漢文を一緒に学ぶ 古典の手引き 古文・漢文を一緒に学ぶ 古典の手引き 定着ノート				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 古文：単語・文法・古典常識を身につけ、内容理解ができるようにする 漢文：単語・句法・歴史的背景を身につけ、内容理解につなげる</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 現代語訳などができ、登場人物などの心情や作品の主題を理解する 作品がその後の文学に与えた影響を考える</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ノートの内容に工夫があり、単元ごとのまとめをしっかりと行い、グループワークやペアワークに積極的に参加すること。</p>				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 古文：単語・文法・古典常識（計50点） 漢文：単語・句法・歴史的背景（計50点）※古文漢文混合の場合も計50点</p>				
	<p>観点② 演習問題・記述式 （内容理解、現代語訳、心情理解、主題把握等）（50点）</p>				
	<p>観点③ 小テスト（5点）、感想・まとめ（5点）、 授業姿勢（ペアワーク等の姿勢も含む）（5点）、2学期プレゼン（5点）</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・「古典探究」では古文と漢文を深く学習する。 ・文法、単語、句形の知識を用いて、自力で現代語訳し、内容を理解する必要がある。 ・音読、ペアワーク、問題演習などを通して、解釈に必要な知識や技法を身につけていく。 ・また3年次では『源氏物語』について探究を行う。 				
家庭学	学習内容と進め方	わかる・読める・解ける古文単語330を進める			
	学習の目安時間・分量	1日数単語を毎日			

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	1.『枕草子』二月つごもり ※小テスト：古文用言	・助動詞と係助詞と敬語の理解
	5	2.『後漢書』梁上君子 ※小テスト：古文助動詞	・後漢王朝の歴史書への理解
	7	【中間考査】	※古文単語を考査範囲として出題
		3.『蜻蛉日記』うつろいたる菊 ※小テスト：古文敬語 4.『大鏡』貫之と躬恒	・蜻蛉日記についての理解・和歌の理解 ・大鏡についての理解・敬語の理解
2	9	5.漢文：『小説』酒虫 ※小テスト：漢文句法	・中国の小説について学ぶ
		【期末考査】	※古文単語を考査範囲として出題
	10	6.『史記』天道是か非か 7.『無名草子』文 ※小テスト：古文復習 ※小テスト：漢文復習	・『史記』の理解・句法の復習 ・物語評論についての理解
		【中間考査】	※古文単語を考査範囲として出題
11	8.『源氏物語』について ・車争ひ ・登場する女性についてプレゼン	・源氏物語についての理解 ・登場人物を探求し、発表する	
	※小テスト：古文復習 ※小テスト：漢文復習 【期末考査】	※古文単語を考査範囲として出題	
3			

習	学習状況の確認方法	定期考査に範囲として出題
	成績評価との関係	観点①に配点される
料の活用等・探究へのつな	岩波書店の『古典文学大系』などを用いて解釈の助けとする。教科書の同作品の別の部分を見て古典文学を味わう。解釈に関わる本を読む。	

--	--	--	--

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地理歴史科	日本史発展	進学文系	3	今井
教科書	『詳説日本史』(山川出版)				
副教材	『日本史重要語句Check List』(啓隆社)・『図説日本史通覧』(帝国書院)				
評価基準	観点① 知識・技能 用語や背景を知る。理解し、覚える。：我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 教科書・副教材・授業で出てくる用語の記述や短文の選択等				
	観点② 正誤判定問題・図や表、資料から読み取る問題・論述問題等				
	観点③ 普段の授業への取り組み・提出物・長期休みの課題等				
授業のねらい・進め方・注意点	ねらい・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 進め方・注意点・学習者は、自ら調べ、考え、判断し、行動する力(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学びに向かう態度)を身につける。「日本史で学ぶ」を意識する。・学習者は、多様な人と協力し、課題を乗り越えていく力を身につける。(協調性やリーダーシップ等)・学習者は、良識ある大人として行動する。				
家庭学	学習内容と進め方	【授業の復習】 授業の復習にCheck List、Quizletを利用すること。 【授業+αとして】 旧国名・都道府県を覚える。			
	学習の目安時間・分量	【授業の復習】 1時間の授業に対して、1時間の復習を目安とする。 【授業+αとして】 旧国名・都道府県の暗記は定期考査に向けて各自で時間をとること。			

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	『詳説日本史』 『Check List』	第8章 近世の幕開け
	5	『図説日本史通覧』 配布プリント	第9章 幕藩体制の成立と展開 中間考査
	6		第10章 幕藩体制の動揺
	7		第11章 近世から近代へ 期末考査
2	9	『詳説日本史』 『Check List』 『図説日本史通覧』 配布プリント	第12章 近代国家の成立 第13章 近代国家の展開 中間考査
	10		第14章 近代の産業と生活
	11		第15章 恐慌と第二次世界大戦
	12		第16章 占領下の日本 期末考査

習	学習状況の確認方法	【授業の復習】2学年次と同様、Check Listから10点分出題する。 【授業+αとして】2学年次と同様、旧国名・都道府県から10点分出題する。
	成績評価との関係	定期考査の観点①20点分
図書資料の活用等・探究へのつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に関連する図書室資料を紹介する。 <p>(例)小和田哲男『知識ゼロからのCGで読む戦国時代』 幻冬舎など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習・発表、レポート課題で、書籍や新聞を活用する。 	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	世界史発展	進学	3	長尾
教科書	【世探704】詳説世界史 山川出版				
副教材	山川 詳説世界史図録 第5版（世探704準拠） 世界史探究 詳説世界史 授業用 整理ノート（世探704準拠）				
評価基準	観点① 知識・技能 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 授業で学んだ歴史的出来事について理解ができているか。				
	観点② 資料・史料やデータなどから複数の根拠をもって問いに答えることができる。				
	観点③ 授業への姿勢や協同作業など自ら前向きに動くことができる。				
授業のねらい・進め方・注意点	現代の世界史の基礎・基本的な事項を学ぶ。 また、暗記ではなく、歴史に関する知識を深め、異なる地域を比較・関連付けて考察する力をつける。				
学習内容と進め方	日々の生活でのニュース（自分が日々感じていること）が学びにつながる。 日頃の興味・関心・疑問はその都度、消化・解決しながら過ごしてほしい。				
学習の目安時間	予習よりも復習に重点を置いてその日の学習内容を30分以内で確認してほしい。アプリやWebツール				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	教科書：『詳説世界史』 副教材：『詳説世界史ノート』 『詳説世界史授業用整理ノート』 『詳説世界史図録』	第18章 冷戦と第三世界の台頭
	5		1 冷戦の展開
	6		2 第三世界の台頭とキューバ危機
1	7		3 冷戦体制の動揺
	9		第19章 冷戦の終結と今日の世界
2	10	教科書：『詳説世界史』 副教材：『詳説世界史ノート』 『詳説世界史授業用整理ノート』 『詳説世界史図録』	1 産業構造の変容
	11		2 冷戦の終結
	12		3 今日の世界
			4 現代文明の諸相 地球世界の課題の探究

家庭学習	時間・分量	を使うことで効率化が図れるので授業中に使用しているものは家庭学習でも取り入れてほしい。
	学習状況の確認方法	ニュース、時事問題を目や耳にしたときや地理の授業時に、習得した知識・技術が発揮し自分なりの考えを持つことができれば良いと考える。
	成績評価との関係	課題などの提出物は観点③に加算します。
図書資料の活用等・探究へのつながり	探究レポート課題や発表で参考文献として図書室にある書籍を活用する。	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地歴	地理探究	進学文系	3	佐々木
教科書	【地探702】帝国書院『新詳地理探究』【地図702】帝国書院『新詳高等地図』				
副教材	啓隆社『'26サクシード地理』				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <p>地球表面の諸事象の、空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <p>諸事象について、場所の特徴や場所の結びつきなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>世界の多様な生活文化を尊重し、共生を図っていくことについて、主体的に追究し、課題を見いだしているか。生活の中で必要な防災・減災に向けた備えについて、主体的に追求し課題を見出しているか。</p>				
考查	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施</p> <p>上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
評価	<p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する</p> <p>1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20</p> <p>3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10</p>				
テスト・評価の内訳	<p>観点①</p> <p>教科書・ノート、授業で出てくる用語の記述や短文の選択</p>				
	<p>観点②</p> <p>正誤判定問題・地図問題・資料問題・論述問題</p>				
	<p>観点③ 社会に関心を持ち、時事問題などを自ら知る姿勢を持つ。</p> <p>普段の授業姿勢・提出物・小テスト・長期休暇の課題</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>(ねらい)地球表面の諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性や地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みを理解し、地球的課題について多角的に考察する力を身に着ける。</p> <p>(注意点)知識の習得にとどまるのではなく、様々な地球的課題の解決に向けて、その知識をどのように活かしていくのか、また、持続可能な社会の構築にどのような知識を身に着けたらよいかを考えながら、授業を受けてほしい。</p>				
学習内容と進め方	<p>社会情勢に関心を持ち、日々のニュースと教科書の中の事柄を結び付けて考えられるように、様々な情報に触れるよう心掛けてほしい。</p>				
学習の目安時間	<p>1日10分以上。新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネット</p>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	様々な地図	地図投影法・時差・統計地図 地形図
	5月	地球環境問題	地球温暖化 森林破壊・生物多様性の危機 砂漠化・水問題 大気汚染・海洋汚染
	6月	<p>【中間考査】</p> <p>農牧業 林業・水産業 農作物と食糧問題</p>	自給的農業・商業的農業・企業的農業
7月	<p>【期末考査】</p>		
2	9月	エネルギー・鉱産資源	エネルギー資源・電力・鉱産資源
	10月	工業	工業の発達と立地 各種工業 産業別人口構成と消費活動
	11月	<p>【中間考査】</p> <p>世界の人口 人口問題 村落と都市</p>	村落・都市の発達と立地
	12月	<p>都市問題</p> <p>【期末考査】</p>	
3	1月		
	2月		

家庭学習	学習時間・分量	1日10分以上、新聞やテレビなどのニュースに触れる時間をとること。ネットニュースだけでなく、オールドメディアなどの媒体も活用すること。
	学習状況の確認方法	時事ニュースに関して不定期に小テストを行う。また、時事ニュースに関するレポートを長期休暇の課題として課す。
	成績評価との関係	提出物、課題、小テストは観点③として評価する。
図書資料の活用等・探究へのつながり	新聞記事に関するレポート提出を課す。 図書資料の紹介を行う。	

	3月		
--	----	--	--

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	地公	政治経済	進学文系	3	黒羽・今井
教科書	詳述 政治経済				
副教材	詳述 政治経済 演習ノート				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書の基本用語を中心に現代社会を理解するために必要な知識を身につけている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 基本用語を知識として身につけるだけでなく、そうした用語が現代社会の中で、どのように使われているかを知り、自らも表現方法として使用できている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 社会での出来事に対して、興味関心を持ち、自らも社会の一員として生きる自覚を持っている。積極的に授業に取り組んでいる。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20 3学期: 観点①学年末50 + 観点②学年末50 + 観点③ 10				
テスト・評価の内訳	観点① 定期考查による				
	観点② 定期考查による				
	観点③ 授業時に実施する新聞レポート発表や課題提出や内容、授業への取り組み姿勢				
授業のねらい・進め方・注意点	基本用語の知識の習得を基本とし、単なる取得だけに終わらずに、現代社会の諸問題を理解し、自らの考えや意見を持てるようになることを目指す。授業では、講義形式だけでなく、発表やグループワークなども取り入れて、主体的に思考を深められるようにしていく。				
学習内容と進め方	【授業の復習】 授業の復習に演習ノートを利用すること。 【授業+αとして】 ①新聞を読む。②歴代内閣総理大臣（所属政党）を覚える。				
学習の目安時間	【授業の復習】 1時間の授業に対して、1時間の復習を目安とする。 【授業+αとして】 ①新聞は休み時間に図書室を利用することを勧める。②歴代				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4月	教科書 演習ノート	第1章 経済社会の変容 1 経済活動の意義 2 経済社会の形成と変容
	5月		第2章 現代経済のしくみ 1 市場機構 2 現代の企業 中間考查
	6月		3 国民所得と経済成長 4 金融のしくみ 5 財政のしくみ 期末考查
2	9月	教科書 演習ノート	第2章 現代の国際経済 1 商品資本の流れと国際収支 2 国際経済体制の変化 3 グローバル化と世界金融
	10月		4 地域経済統合と新興国の台頭 中間考查 第3章 現代経済と福祉の向上
	11月		2 日本の中小企業と農業 5 労使関係と労働条件の改善 6 社会保障の役割 期末考查

家庭学習	学習時間・分量	【授業+αとして】①新聞は休みの時間に図書館を利用することを勧める。②NHKTV 内閣総理大臣（所属政党）の暗記は定期考査に向けて各自で時間をとること。
	学習状況の確認方法	【授業の復習】定期的に演習ノートを提出し、取り組み度合いを確認する。 【授業+αとして】①授業での発表。②定期考査に出題する。
	成績評価との関係	【授業の復習】観点③に算入する。 【授業+αとして】①観点③に算入する。②定期考査の観点①として出題する。
図書資料の活用等・探究へのつながり	適宜紹介する。	

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	保健体育	体育	進学文系	3	保健体育科
教科書					
副教材					
評価基準	観点① 知識・技能 ・授業内で学んだ技能を実技テストにて評価				
	観点② 思考力・判断力・表現力 ・技能の行い方や組合せ方について、自己や仲間と良い点や修正点を指摘し合いながら互いに新たな課題を発見しているとともに技能を表現しようとしている。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 ・技術練習やゲームの経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、他者と協調性を大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。課題を提示し評価する。				
考査	実技テストを授業内で行う				
評価	観点①60点、観点②20点、観点③20点=100点満点で評価				
テスト・評価の内訳	観点① 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける ※1学期は新体力テストが加わる				
	観点② 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
	観点③ 観察及びレポートにて評価をする 体育館種目、グラウンド種目、柔道・ダンスのそれぞれで観点の評価をつける				
授業のねらい・進め方・注意点	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。また、授業内での安全確保（感染症対策も含む）にも留意し、生徒の健全な授業環境の確保に努める。				
学習内容と進め方	授業内で実施した内容をもとに、実技動画を調べたうえで各自視聴し、次回授業に生かすようにすること。				
学習の目安時間	それぞれの技能に応じる。				

授業の計画

学期	月	教材	内容				
1	4		○オリエンテーション (新学期・実技指導・内容説明)				
			○新体力テスト				
			【グラウンド種目】ラグビーフットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。				
			【体育館種目】バレーボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。				
1	5		【ダンス】 ・内容説明、基礎動作・振り付け指導 ※実技テストも行う。				
			6		【柔道】 ・実技指導、内容説明、受身・寝技 ※実技テストも行う。		
					7		
2	9		【グラウンド種目】サッカー ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。				
			10		【体育館種目】バスケットボール ・基本動作の習得～応用、ゲーム ※実技テストも行う。		
					11		【ダンス】 ・創作ダンス、振り付け指導 ※実技テストも行う。
							12
3	1						

家庭学習	学習時間・分量	
	学習状況の確認方法	実技テストでの評価
	成績評価との関係	観点別評価の内訳に準じる
図書資料の活用等・探究へのつながり		

	2		
	3		

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	芸術	実用書道	3年進学	1	村田萌 佐藤敦子
教科書	『きれいな文字の書き方』（書き込み式練習帳）宮澤正明 二玄社				
副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆筆記具・筆ペン ・練習用ノート 				
評価基準	<p>観点① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ○用具・用材に関する知識を身につけ、その扱い方を理解する。 ○書道の歴史を通して現代の実用に適する技術とは何かを学習する。 ○字形の構成・用筆法を学習し、技術を身につける。 ○硬筆及び筆ペンの技術の違いを学習する。 ○楷書及び行書の技術の違いを学習する。 				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した技術を生かし応用して書くことができる。 ○文化祭の機会を有効に活用し、作品発表をする。 				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業に積極的に取り組もうとしているかどうか。 ○上手くなろうという努力をしているかどうか。 				
考査					
評価	各学期、その時点までの通算を5段階 1～3学期: 観点①50% + 観点②20% + 観点③ 30%				
テスト・評価の内訳	<p>観点①</p> <ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の課題提出及び、課題テストの点数。 				
	<p>観点②</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業内で得た知識・技術を最大限活用できたか。上達に向けて努力したか。 				
	<p>観点③</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テキストを活用し、自主的に学ぼうという姿勢がみられるかどうか。 ○提出状況。相互評価等の取り組み。 				
授業のねらい・進め方・注意点	書道の実用に適う技術の習得とともに、丁寧な運筆による安定した心情を養うこと、さらに手書き文字特有の美を享受することで鑑賞眼も育てる。				

授業の計画

学期	月	教材	
1	4	<p>ガイダンス</p> <p>【楷書の法則】</p> <p>テキスト50～57頁</p> <p>【楷書の法則】部分の組み立て</p> <p>テキスト50～57頁</p>	<p>実用書道の意義と:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線対象に近い文: ・偏と旁
	5	<p>【楷書の法則】部分の組み立て</p> <p>テキスト62、63頁</p> <p>【楷書の法則】内外の組み立て</p> <p>テキスト66、67頁</p> <p>【楷書の法則】概形</p> <p>テキスト69、82、83頁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冠と脚
	6	<p>【楷書・筆ペン】</p> <p>テキスト46、47頁</p> <p>【楷書・筆ペン】</p> <p>テキスト104～107頁</p> <p>【学園祭展示用の作品制作】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○テスト実施「楷: 二字、三字または四字
2	9	<p>【ひらがなの法則】</p> <p>テキストひらがな部分</p> <p>【漢字とひらがなの調和】</p> <p>テキスト85、97頁</p> <p>【履歴書を書く】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・字母を理解し、: ○テスト実施「ひ
	10	<p>【行書の法則】</p> <p>【行書・筆ペン練習】</p> <p>テキスト76～79頁</p> <p>【のし袋を書く】</p> <p>テキスト150頁</p>	<ul style="list-style-type: none"> ※筆ペンを使用
	11	<p>【手紙文の練習】</p> <p>【手紙を書く】</p> <p>【筆ペンを用いた漢字かな交じりの書】</p> <p>【リレー書道】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙、はがきの: ・相互評価

家庭学習	学習内容 と進め方	テキストの提出に向けて、家庭学習で補う。筆記テストには、家庭学習をしてから臨む。
	学習の目 安時間・ 分量	週に30分から1時間
	学習状況 の確認方 法	テキスト、ノートをそれぞれ学期に2回提出し、評価を付ける。
	成績評価 との関係	観点別評価に準ずる。
図書資料の 活用等・探 究へのつな がり	「常用漢字書き方字典」等を参考にする。	

3			
---	--	--	--

内容

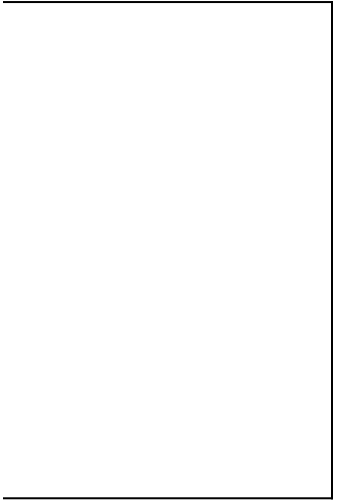
持ち物等の確認
字の整え方

書」

熟語を決めて用紙に清書。
流れと骨格を意識する。

らかな」

書き方を学ぶ



2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	English Communication III	進学	4	太田・久保田・伊藤・草地
教科書	FLEX III English Communication III(増進堂)				
副教材	ターゲット1400(旺文社) レシピー(POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 教科書・副教材で扱った知識、表現を覚えている。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 教科書・副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 初見長文を時間内に正確に読める。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 授業中に音声活動やペアワーク活動に参加している。 授業の復習を行っており、授業で扱った表現を口頭でアウトプットすることができる。 レシピー等の課題に取り組むことができる。				
考査	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考査は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① FLEX: 空所補充、部分英訳 英単語ターゲット1400: 英文の空所補充				
	観点② FLEX: 整序問題、和訳、内容説明、文法応用問題、初見問題				
	観点③ 音読テスト(グルグルテスト)、音読課題(レシピー)への取り組み度 授業の活動への参加意欲				
授業のねらい・進め方・注意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習は基本的に不要、復習を重点的に行う。その際、口頭でのアウトプットに重点を置くこと。 ・授業の流れは、単語学習→リスニング→リーディング→解説→音読(知識の定着)→音声でのアウトプット(2年次とほぼ同様) 				
学習内容と進め方	授業であつかった内容の復習を以下の手順で行う。①Quick Responseで単語の復習を行う。日本語だけ見て、英語に直せることが目標。②Chunking Practiceで扱ったフレーズを、口頭、筆記で日本語から英語に直せるようにする。③授業で扱った本文を通して音読し、授業内容を復習する。				
学習の目安時間	30分~1時間、時間以上に毎日続けて、何度も復習することが重要です。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	FLEX III	L1 Potential Uses of Optical Illusions L2 Expanding World Population (L3 What makes a Hit Song?) ※進度によってはカット
	5		中間考査
	6		L4 Visas for Life L5 How Have Butterflies Survived?
2	7		
	9		L6 Mr. Price Meets Jakuchū L7 Sustainable Lifestyle of the Edo
	10		中間考査
	11		L8 Why Do We Lie? L9 In Defense of Zoos
12	期末考査		
3			

	学習時間・分量	
	学習状況の確認方法	①Quick Responseで日本語だけ見て、口頭・筆記どちらともで英単語に直す。②Chunking Practiceで扱ったフレーズを、口頭、筆記で日本語から英語に直す。③授業で扱った本文を意味を込めながらつかえずに音読することができる、本文をリスニングを聞いて意味が鮮明にとれる。
家庭学習	成績評価との関係	①②によって、FLEXから出題される問題の知識を身につけることができる。③によって、②Chunking Practice以外で扱った本文の知識を身につけることができ、文法の応用問題も解ける。
図書資料の活用等・探究へのつながり	辞書の活用が可能。	

--	--	--	--

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	英語演習I	進学文・理	2	山崎・井原・東牧原・猪瀬・太田・藤本
教科書	CROSSBEAM				
副教材	レシピ（アプリ）				
評価基準	<p>観点① 知識・技能 授業内で扱った長文及び文法の問題を解くことができる。</p>				
	<p>観点② 思考力・判断力・表現力 授業で扱った知識を用いて、類題を解くことができる。</p>				
	<p>観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピで配信された課題に積極的に取り組んでいる。</p>				
考查	<p>1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末・学年末の計5回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。</p>				
評価	<p>各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20</p>				
テスト・評価の内訳	<p>観点① 授業で扱った問題を通し、文法や長文読解を理解し読解することができる</p>				
	<p>観点② 授業で扱った問題を通し、文法や長文読解を理解し応用問題を読解することができる</p>				
	<p>観点③ レシピアプリ内で配信された課題に期限内に取り組み提出できている その他提出物を期限内に仕上げ提出できている</p>				
授業のねらい・進め方・注意点	<p>授業ではCROSSBEAMのテキストを用いて文法・長文読解・図解・リスニング問題の演習を行う。初見問題に慣れることも学習目的の一つであるためこの授業では予習は不要だが、繰り返し復習をし、4技能を身に付けてほしい。レシピアプリには主に文章読解とスピーキング練習の問題が配信される。授業と復習、そしてレシピの課題に取り組むことで英語4技能の向上を目的とする。</p>				
学習内容と進め方	<p>レシピアプリ内に配信される課題に取り組む。</p>				
学習の目安時間	<p>1課題につき10～15分程度</p>				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	CROSSBEAM	Chapter 1~3
	5	中間考査	
	6	CROSSBEAM	Chapter 4~6
	7	期末考査	
8	(夏季課題)	Chapter7~9	
2	9	CROSSBEAM	Chapter10~12
	10	中間考査	
	11	CROSSBEAM	Chapter13~15
	12	期末考査	
3			

家庭学習	学習時間・分量	
	学習状況の確認方法	アプリでの学習履歴と提出状況を確認する。
	成績評価との関係	観点③の評価に含まれる。
図書資料の活用等・探究へのつながり		

--	--	--	--

2026年度

学年	教科	科目	コース	単位	担当者
3	英語	論理表現III	進学文理	3	田代・増村・石井・伊藤・草地
教科書	FACTBOOK English Logic and Expression III (桐原書店)				
副教材	五訂版 英語演習ノート GREEN版 - 英文法の定着 - (数研出版) チャンクで積み上げ英作文 Standard (三省堂) レシピ (POLYGLOTS)				
評価基準	観点① 知識・技能 チャンクのかたまりをとらえることができる。基本的な英文法を理解し、副教材で扱った知識、表現を覚えている。語彙を含めた正しい表現を選択することができる。				
	観点② 思考力・判断力・表現力 構文を理解できている。副教材で扱った知識、表現を用いて類似表現を使える。 英検Writingの形式に合わせて意見論述ができる。				
	観点③ 主体的に学習に取り組む態度 レシピのWriting課題に積極的に取り組んでいる。 授業でペアワークに積極的に取り組み、発言、参加をする。				
考查	1学期中間・1学期期末・2学期中間・2学期期末の計4回実施 上記考查は全て、観点①50点+観点②50点の100点満点で実施する。				
評価	各学期、その時点までの通算を5段階評定で表記する 1・2学期: 観点①(中間50+期末50) + 観点②(中間50+期末50) + 観点③ 20				
テスト・評価の内訳	観点① 並べ替え・穴埋め選択 (15点) 4択、書き換え、英訳・和訳、並べ替え、空所補充 (35点)				
	観点② テキストアレンジ問題 (4択、書き換え、並べ替え、空所補充) 30点 英検Writing20点				
	観点③ レシピ英検Writing課題 (8題×2=16点) ペアワークその他4点				
授業のねらい・進め方・注意点	高校英文法の習得に向けて、「英語演習ノートGREEN」で基礎的な文法項目の反復演習を行う。1コマ1ページを目安に「チャンクで積み上げ英作文」を最初の10分で解き語彙を含めたチャンクのかたまりを意識して読む習慣を身に着ける。5/29(金)に全員受験する英検2級に向けて、Writing(意見論述・要約)のレシピ課題に取り組む。				
学習内容と進め方	授業の予習は不要だが、これまでの知識を総動員して授業中に自力で悩みながらも解いてみる姿勢が大切。そしてその日のうちに復習としてもう一度解くこと。解答の根拠を常に考えながら解いて、正しい解答を導けるようにする。				
学習の目安時間・	授業があった日は、同じ問題を最低1回は解くこと。正解がわからない問題をそのままにしないこと。また、単元が終わる前に、その問題を全て解くこと。				

授業の計画

学期	月	教材	内容
1	4	レシピログイン GREEN チャンクPart1ドリル1~6	3.時制 6.受動態 4.完了形 7.不定詞 5.助動詞 8.不定詞 英検Writing(意見論述・要
	5	レシピ課題 5/21(木)~25(月)	
	6 7	GREEN チャンクPart1ドリル7~12 レシピ課題 7/4(土)~8(水)	9.不定詞III 13.比較I 10.動名詞 14.比較I 11.分詞 12.不定詞・動名詞・分詞 英検Writing(意見論述・要
2	9	GREEN チャンクPart2ドリル13~18	15.関係代名詞I 16.関係代名詞II 17.関係副詞
	10	レシピ課題 10/20(火)~23(金)	18.仮定法 19.時制の一致・話法 英検Writing(意見論述・要
	11 12	GREEN チャンクPart2ドリル19~27 レシピ課題 12/1(火)~4(金)	21.代名詞 24.接続詞I 25.接続詞II 英検Writing(意見論述・要
3			

家庭学習	学習時間・分量	のままにしないこと。また、単元が終わる毎に、その問題を全て解くこと。
	学習状況の確認方法	考査前に全演習で試験範囲の全ての問題を再度演習する。その演習の正答率で、日頃の学習の状況を確認する。
	成績評価との関係	以上ができていれば観点①は満点となる。
図書資料の活用等・探究へのつながり		

--	--	--	--

—

—

I
II
約)

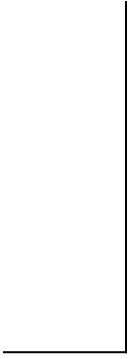
I
約)

—

約)

約)

—



2026年度

学年	教科	科目	単位	担当者
3	外国語	English Conversation	1	Perry・山浦・石井・伊藤・鳥海
The aim of this Course	The aim of this course is for students to get used to speaking by producing as much output as possible and practice for Eiken.			
Overview of the Course	<p>Using a sample card, students practice doing the whole exam in pairs, without any input from teachers. This allows students to try answer using the language skills they currently have and teaches them to actively produce language to complete a task.</p> <p>Break exam up into sections, using each subsequent lesson to focus on 1 or 2 sections at a time to allow students enough time to become familiar with each section.</p> <p>Elicit answers from students and highlight any “exceptional” responses.</p> <p>Provide model answers to students with explanations.</p> <p>Students can then compare their answers with model to notice what changes they need to make to improve.</p> <p>Students practice in pairs (and new pairs) to apply what they have learned.</p>			
Consideration	<p>In preparation for the exam, it is important to give students as much time as possible to practice speaking.</p> <p>Pairwork is probably the most efficient use of time.</p> <p>Teacher speaking time should be minimized and done to introduce tasks, explain important points, or give advice and feedback.</p>			
Tests & Exams	In-Class test			
Textbooks	Digital materials sent through Google Classroom			
	iPad			

授業の計画

Term	Month	Schedules	Contents
1	4		Eiken Practice Grade pre 2nd
	5		Eiken Practice Grade 2nd
	6	Mid term exams	
	7	Final Exams	Conversation practice with certain topics
2	9		Conversation practice with certain topics
	10		
	11	Mid Term Exams	
	12	Final Exams	
	1	No class	

3年次 総合的な探究の時間 シラバス

活動の指針	<p>3年次では、以下を重視して実施。 2年次からの個人探究を引き続き行い、深め論文にし、発表する。 進路探究を通じて自分を理解する。</p> <p>一学期 志望理由書の作成、個人探究の継続 二学期① 論文にしたものを踏まえスライドにする 二学期② 全員発表する</p>
教材 教具	<p>□ iPad (Classroomの連絡が確認できる端末) □ マイナビテキスト「探究の進め方」 □ その他必要に応じて書籍など資料を紹介、配布する。</p>
一学期	<p>志望理由書を作成し、進路探究をする。個人探究を継続する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 志望先学校について深く知る 2. 志望理由書の書き方を学ぶ 3. 志望理由書を書き、添削を受ける 4. 2年3月の発表をさらに発展させるよう個人探究を継続する 5. 論文の書き方を学ぶ 6. 論文を作成する
夏休み	スライドの作成
二学期	<p>前半 スライドを作成し、周囲からアドバイスを受ける 後半 スライドを用いて発表する</p> <p>授業の流れ (概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休みの計画したようにスライドを作成する 2. スライドをも用いて発表する 3. 発表について評価を受け、改善する 4. 他学年に代表者が発表する

注意	
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中間発表での反省を生かし、個人探究のテーマ・内容を深める ・ 探究の目的を理解した上で毎回の活動を行う。 ・ 大学進学後に必要となる論文作成やプレゼンを経験する
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルーブリックを意識した行動を心がける。 ・ 調べ学習、考察、体験から得られた内容、アウトプットを意識した成果物を作成する。

グループ学習における「協働的に学ぶ」とは？	
<p>個人での探究の機会が増えるが、発表などを通じた「協働的に学ぶ」機会があるので、その際には①～⑦を実践できるように心がける。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クラス内で、複数名のグループに分かれて行動する。 ② 協働的に学ぶ際の注意事項や評価指標を全員で確認しておく。 ③ 話し手は〇〇分で意見主張→聞き手は、話し手の意見に乗って+αのアイデアを出す。 ④ グループ内で③を時間の許す限り繰り返す。 ⑤ 会話が倦んで、途切れてしまったときに、はじめて端末や図書で予備知識を補う。 ⑥ 予備知識を補う際は、「誰が何をどの程度調べるのか」を計画してから実行する。 ⑦ 予備知識を仕入れた上で、また③～⑥を繰り返していく。 	
注意事項	評価指標
<p>個々の発言量・機会を均等にする。 人の意見に乗ってばかり...はやめる。 人に指示してやらせてばかり...はやめる。 会話の流れを記録し、遡れるようにする。</p>	<p>協働的に学ぶ意義は「物事を多面的に視る」という点である。様々な側面からの情報や異論などを集め、整理できれば、よいチームだと評価される。</p>